

令和7年(2025年)3月6日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校  
校長 張 裕 太 郎

## 学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、学校教育活動改善等のため、昨年12月に、児童・保護者の皆さまに対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計して分析作業を行い、改善の方向性をまとめるとともに、学校協議会の各委員の方々からもご意見をいただきました。

昨年度と比べ、児童アンケートについては12項目中9項目が、保護者アンケートでは20項目中17項目が向上しました。(いずれも新しく追加した項目を除く。)また、昨年度に引き続き多くの項目で90%以上の高い肯定的評価をいただきました。

学校としましては、言うまでもなく現状に満足することなく、今後のよりよい教育活動等のため、改善と発展をめざしてまいります。

以下に、特徴的な項目について、学校側の「自己評価」「改善の方向性」及び学校協議会委員の方々からの意見を「関係者評価」としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約も添付していますのであわせてご覧ください。

これからも、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、仲間とともに最後までやり切ることを大切にしながら、「なりたい自分を育てる」学校として組織的・継続的に改善・発展を図ってまいります。今後とも、保護者・地域の方々からご理解と参画を得ながら、関係機関と連携し進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 互いに認め合い支え合い、人権を大切にする集団づくり

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童「学校に行くことが楽しい」、保護者「学校生活を楽しんでいる」の肯定的回答が昨年度と比べ増加し、高い評価をいただくことができた。これからも、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、努めていく。</li> <li>挨拶については、昨年度と比べ減少したものの、90%前後と肯定的評価が高い結果であった。実際に、多くの児童が朝や校内でも挨拶をよくしている。</li> <li>学校が大切にしなければならない、児童「先生は困ったときや悩んだ時に力になってくれる」、保護者「学校はいじめや子どもの悩みに対応している」の肯定的回答は、昨年度と比</li> </ul>
------	---

べ増加した。今後も、児童の困り感や悩み、小さな変化などを見逃さないよう、担任一人だけではなく複数名で早期発見・未然防止に努めていく。

- ・保護者「学校は、一人ひとりの個性を大切にし、意欲や自信を持たせている」「学校は、互いに認め合い支え合う集団づくりに取り組んでいる」の肯定的評価は、ともに高い評価をいただくことができた。これからも、教職員が児童のアセスメントをもとに一人ひとりの良さを大切にし、安心して学べる学級集団づくりを行っていく。
- ・児童「自分には、よいところがあると思う」の肯定的評価は、昨年度85%に対し今年度77%と減少した。11月18日配付の学調報告と同様、肯定的ではない回答をしている児童が一定数いることを受け止め、結果だけでなく、過程を重視する指導を行い、「あきらめずに粘り強く生き抜く力」の育成を図ることが必要であると考えます。
- ・「思いやりのある行動ができていく」の評価は、児童、保護者とも微減したが、実際の学校生活では、多くの子どもたちの思いやりのある行動がとれている場面はよく見られる。
- ・これまで本校の課題の一つであった「人の話をしっかりと聞くことができる」の項目については、児童、保護者ともに肯定的評価の割合が向上した。しかし、児童間トラブル等でも、自分の主張はできるが、人の話を聞く力が弱いことが起因になっているケースがあるので、これからも課題の一つだと考えている。

改善の方向性

- ・小規模校であるからこそその強みとして、普段から一人ひとりの児童への理解に努め、状況を学級担任一人だけではなく複数名の教職員で共有して、日々の教育活動に活かしており、そのことを継続していく。また、昨年度の保護者自由記述でいただいたコメントであった、保護者の方に対してのより丁寧で細かな連絡についても引き続き行い、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てることにつなげていきたいと考えている。
- ・引き続き、普段から一人ひとりの児童への理解に努め、状況を低中高別の学年団を中心に教職員で共有して、日々の教育活動に活かしていく。また、児童の困り感や悩み、小さな変化などを見逃さず、学校体制として早期発見・未然防止に努めていく。
- ・今年度も集団づくりのポイントや仕掛けについての校内研修を行えた。これからも、様々な機会を通して、自己有用感を味わえる機会が少しでも多く持つことができるよう、また、子どもたちが成果を感じられるよう取組みを行い、共通理解のもと、児童一人ひとりが安心できる集団づくりをめざす。
- ・学校の取組みの中での肯定的な言葉かけや、適切な評価が、児童の自己肯定感を高め、また、最後までやり遂げる経験をさせることで、達成感や「やる気」を育てていくと考える。
- 引き続き、児童一人ひとりのよい点や可能性、がんばりを見つけ、積極的に評価し、学級集団に返していくことを大切にする。
- ・今年度も児童会を中心とした挨拶運動を実施するなど、挨拶に関する啓発活動を行えた。そうしたことにより、互いに声をかけやすい環境を作り、今後も自分から挨拶しようと思

	<p>える児童を増やしていきたい。</p> <p>・「人の話をしっかり聞くことができる」子どもの育成のためには、まずは大人が子どもの話 に熱心に耳を傾けないことには、子どもに聞くことの重要性は伝わらない。学校も今まで以 上に、子どもたちの話をたくさん聞くよう心掛けていく。</p>
関係者評価	<p>・子どもが「学校に行くのが楽しい」と感じている。それが一番良い。日々の先生方の優しい 声かけ、自分でやろうと思わせてくれる声かけのおかげだと感じる。</p> <p>・「自分には、よいところがあると思う」が下がってはいるが、「1 つも良いところがない」と思 っているのか、「完璧でない」と思っているのか分からない。</p> <p>・保護者もさらに意識して、子どもの話をしっかり聞いていただき、見本を示して欲しい。</p>

	<p>に学習する習慣が身につくようにする授業であると考えている。そのためにも、授業形態や必要 に応じての個別指導等を効果的に取り入れたり、到達目標を具体的に細かく設定したり し、達成感を味わえる工夫も取り入れ、日ごろから子どもの実態をふまえた授業づくりに、 継続して取り組んでいく。</p>
関係者評価	<p>・家庭学習ウィークをしていただいでいて、良い結果が出ている。学習は主体的にやるものだ から、結果がついてきたら、すすんでするようになる。良い結果が感じられると上へのびる。 その意味でも、積み重ねが大切だと思う。</p> <p>・改善の方向性で「学習は、やらされるものではなく自ら主体的に取り組むことで…」とある が、本当にその通りで、結果が出ればさらに上をめざすようになる。</p> <p>・授業について、先生方の工夫などがあることを感じる。</p> <p>・宿題もきちんとしていて、いつもよく頑張っていると思う。</p>

<p>確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る</p>	
自己評価	<p>・「授業は楽しくて、よくわかる」「授業が楽しくわかりやすいと言っている」「学校は、どの子 もわかる授業づくりに取り組んでいる」など、学習に関する項目は、肯定的意見の割合が 全て向上した。</p> <p>・現在4年生以上で行っている算数の分割・習熟度別学習・TTについて、複数の教員で児 童の実態把握を行い、その児童の実態に応じて学習活動を展開できるよう取り組んでいる 結果、肯定的評価児童89%（昨年度に比べ13%向上）、保護者100%であった。</p> <p>・「家庭学習や宿題を行っている」の項目は、肯定的評価児童 95%、保護者94%という高 い結果であった。実際、昨年度から実施している「家庭学習ウィーク」なども提出率が高く、 熱心に取り組んでいる様子が伺える。</p> <p>・今年度から児童、保護者ともに新たに追加した項目「自分の得意・苦手にも挑戦できる」 についても、高い肯定的評価であった。子どもたちにはこれからも、「なりたい自分」に近づ くために、「なりたい自分」を育てられるために、「いつか やろう」ではなく「今 やろう」と、 挑戦する気持ちを持ち続けて欲しいと考える。</p>
改善の方向性	<p>・学力保障・授業づくりと集団づくりは、どちらかだけではなく、どちらも欠かすことのできない 密接な関係にあり、言うまでもなく大切なものである。昨年度の課題としてあげていた、安 心して学べる学習集団の形成については、今後も大切にしていく。</p> <p>・学習は、やらされるものではなく自ら主体的に取り組むことで、より深く身につくものであ る。学習習慣についても、自ら主体的に取り組めるよう、保護者の方とともにお子さまの頑 張りを認め、適切な評価を行う等により、子どもたちの「学ぶ意欲」を育むことで、更なる確 かな学習習慣の定着を図っていく。</p> <p>・授業づくりに関しては、高い評価を得ており、教職員が日々研修に励み、授業改善に取り組 んできた成果であるといえる。分かる授業とは、児童が「なるほど!」「わかった!」「あっそう か!」「できた!」といった達成感を得られる授業であり、「できた喜び」を体感して、主体的</p>

<p>日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する</p>	
自己評価	<p>・学級はもちろん、学校行事や児童朝会など様々な機会を通して、意識して児童に目標を持 たせ振り返りをしながら、主体的な行事や学校内の諸活動になるよう取り組んできた。その ようなこともあり、「学校行事に目標を持って取り組んでいる」という項目で、保護者、児童 ともに肯定的評価の割合が高い結果であった。</p> <p>・外遊びをしている児童と、そうでない児童が分かれているが、同学年、異学年に関わらず、 子どもたちどうし一緒に外遊びをしている姿がよく見られる。そのことが児童、保護者ともに アンケートの結果にも表れていると考える。</p> <p>・読書については、児童の強い肯定は昨年度と比べ13%向上しており、読書への興味が深 まったと感じている。一方で、保護者の方がご家庭で見守る姿としては、それほど強い肯定で はないことが見受けられる。日頃から本に親しむ機会については、課題として残ると考える。</p>
改善の方向性	<p>・今年度は、ガンバ大阪の選手の方々や絵本作家の岡田よしあさんが来校していただき、 児童と直接触れ合える機会を持つことができた。今後も、そのような児童の経験・体験する 機会をできる限り確保したい。</p> <p>・引き続き、教職員が意識して児童に目標を持たせ、責任のある役割や本番だけでなく、準 備・片付けなどを通して、児童による児童のための行事・諸活動になるよう取り組んでいく。</p> <p>・体を動かす喜びを感じられるように、朝あそび・登校班あそびや4年生以上の放課後の運 動場開放など、多様な活動を実情に合わせて行う。日々の休み時間のみならず、運動する 機会を持てるよう意識する。</p> <p>・読書については、校内において、委員会活動を含め、オーサービジット事業など様々な機会 に積極的に児童・教職員が読書に関する活動を行っている。ただ昨年度と比べ、保護者の 肯定的評価が下がっていることから、更に本に関する興味関心を高め、家庭を含め日頃か</p>

	<p>ら本に親しむ読書活動を行っていく必要性を感じる。</p> <p>・学校だより等でもお伝えしている通り、今年度、大阪府教育庁から「学校図書館を充実・活用するためのスクール・エンパワーメント推進事業」のモデル校指定を受け、取組みを進めてきた。10月3日に実施した公開授業では、熱心に学ぶ子どもたちの姿への高い評価をいただくことができた。また、本校図書館のあたたかい雰囲気や取組みなどにも賛辞をいただくことができた。引き続き今後も、授業における図書の活用や調べ学習の充実などから、更に情報収集と活用・発信を推進するとともに、学力向上のみならず、本に親しみ心を豊かにする一助となるよう、学校全体で取組みを進めていく。</p>
関係者評価	<p>・休み時間の遊び方や種類が変わったのか、これだけでは、良い・悪い、の判断はできない。</p> <p>・外遊びが減っているのは、図書館などの校内での遊びが充実しているからなのではないかとも思う。</p> <p>・子どもが本を読んでいるかどうか知らない保護者も多いのではないかと。保護者も読む習慣を持つと、子どもも変わるのではないだろうか。</p> <p>・行事に目標をもって頑張っていることがよく分かった。</p> <p>・外部講師の方のお話などはとても良かった。そういったことを継続してもらいたい。</p>

地域に学び、保護者や地域との連携につとめる(学校経営に関して)	
自己評価	<p>・設備面では、施設全体の老朽化は否めない。更なる改善要望の声があることは、きちんと受け止めなければならない。学校施設としては来年度で閉校となるのだが、今まさに学びを続けている子どもたちの活動がきちんと保障されるようにならなければならないと考える。引き続き、町に内容を精査した上で改善要望を出していく。</p> <p>・不審者対応や緊急災害時のマニュアルについては、毎年訓練や総括をし、見直し及び改訂を行い、学校の情報等を含め学校だより等でお知らせすることができた。校内での避難訓練、引渡し訓練も行え、必要に応じ複数回行った訓練もあった。</p> <p>・保護者や地域ボランティアの登下校の見守り、地域とのつながりに関しては、今年度も高く評価されている。</p>
改善の方向性	<p>・月2回発行している学校だよりなどを通じて、地域の方々にも、今後も子どもたちの様子を発信していきたい。</p> <p>・各教室設備等の老朽化など、まだまだ改善されていない部分もあり、日々の点検・補修に努めながら、引き続き町にも改善要望を出していく。</p> <p>・今年度も、保護者向けの緊急下校訓練を全学年対象に行うことができた。いつ起こるか分からない万が一に備え、課題点を整理し改善していく。</p> <p>・授業支援や校内花壇整備など、日頃からサポーターの方々にご協力していただいている。来年度も引き続きご協力いただき、より充実した教育活動を行いたい。</p>

関係者評価	<p>・地域との連携等も十分に行っていただいている。ただ、関わっている人が固定化しているのではないかと。PTA 役員などもやってみたら意外と面白いと感じる人が多いので、ぜひ積極的に関わってもらいたい。</p> <p>・地域にも学校へ来たい人はたくさんいる。そういう人が、何か学校のためにできることをしてもらったら良い。いろいろな人に、場を設けることは大事にってもらいたい。</p>
-------	--

(全体を通して)

- ・全体的にとっても良く、あまり言うことがない。
- ・先生方の日々の、努力に感謝しています。
- ・「改善の方向性」を見ていたら、まず大人が率先して行わなければいけないと思った。

(最後に)

今年度から新しく「『なりたい自分を育てる学校』～自律・つながり・挑戦を育てる～」を学校教育目標として掲げ、活動等を行ってまいりました。以前にもお伝えしましたが、この学校教育目標には「なりたい自分を見つけ続ける」「自分自身で生き抜く力を育てる」「夢や目標、志が広げられる」「自分が思う自分になる」また、そのためにも「周りの友だちを大切に、つながり粘り強く学習や様々なことに取り組む」そのような意味がこめられていると考えます。

自己評価にも記載しました通り、今年度新たに追加した項目「自分の得意・苦手にも挑戦できる」について高い肯定的評価であったことは、日頃から日々の教育活動はもちろん、様々な行事等を通じ、前述の思いを持ちながら、いつも励まし認め、失敗も大切に、子どもたちに思い切って挑戦できる機会を持ってきた結果の1つだと考えます。

「その挑戦が、未来を変える。」これは、4年前の東京オリンピック・パラリンピックが行われたときに、CMでよく流れていた言葉です。挑戦することによって、苦手にしていたりできなかったりすることができるようになるかもしれません。挑戦してみると、きっとこれから先、私たちの未来はより良いものになるでしょう。そして、一人ひとりの挑戦が集まることで、学級や学校がより良いものになり、世の中が変わり、未来が変わっていく、先ほどの言葉にはそういった意味が込められていると思います。子どもたちにはこれからも、まずはやってみる、ということを大切に、いろいろなことに挑戦して、さらに力をつけ、たくましく、しなやかに、ぐんぐん成長してもらいたいと思います。

このことは言うまでもなく、学校だけではなく各ご家庭や地域において、温かい声かけや励まし、見守っていただく環境等が基盤としてあってこそのことだと考えます。そういった日頃のご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、今後も引き続きお願いいたします。

強い肯定の割合を更に高めていけるよう、最後の一年となる来年度も改善・発展を図ってまいります。そして、これからも全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、教職員一同、これからも子どもたちとともに様々な教育活動に取り組んでいきたいと思っております。今後とも、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。